

2024

区民と議会の交流会

テーマ

「SDGs推進について」

品川区議会 総務委員会

本日の流れ

進行：新妻さえ子副委員長

◆ 開会あいさつ ことば新 総務委員長

◆ 各委員から自己紹介

◆ SDGsについて

① SDGsとは？ 西本たか子委員

② 品川区の取組み まつざわ和昌委員 松本ときひろ委員

③ 行政視察から他自治体の取組み 大倉たかひろ委員 石田ちひろ委員

■ ワークショップ

・各テーブルで意見交換

・各テーブルの代表による発表

総務委員会



委員長 こしば新



副委員長 新妻さえ子



委員 まつざわ和昌



委員 大倉たかひろ



委員 石田ちひろ



委員 松本ときひろ



委員 西本たか子

SDGsとは？

Sustainable Development Goals

略称: SDGs<エスディー・ジーズ>

持続可能な開発目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2015年9月25日に国連総会で採択された、持続可能な開発のための17の国際目標
2030年までの達成を目指す

その下に、169の達成基準と232の指標が定められています

目標4のターゲット

次世代によるSDGs 169のターゲット

「4-1」のように数字で示されるものは、それぞれの項目の達成目標を示しています
「4-a」のようにアルファベットで示されるものは、実現のための方法を示しています

4-1

2030年までに、男の子も女の子も、**すべての子どもが**、しっかり学ぶことのできる、**公平で質の高い教育を無料で受け、小学校と中学校を卒業できるようにする。**



4-4

2030年までに、はたらきがいのある人間らしい仕事についたり、新しく会社をおこしたりできるように、**仕事に関係する技術や能力をそなえた若者やおとなをたくさん増やす。**

4-6

2030年までに、**すべての若者や大半のおとなが**、男女ともに、読み書きや計算ができるようにする。



4-2

2030年までに、**すべての子どもが**、幼稚園や保育園にかよったりして、小学校にあがるための準備ができるようにする。

4-5

2030年までに、**教育のなかでの男女の差別をなくす。**障がいがあったり、先住民族だったり、特にきびしい暮らしを強いられている子どもでも、あらゆる段階の教育や、職業訓練を受けることができるようにする。

4-7

2030年までに、**教育を受けるすべての人が**、持続可能な社会をつくっていくために必要な知識や技術を身につけられるようにする。そのために、たとえば、持続可能な社会をつくるための教育や、持続可能な生活のしかた、人権や男女の平等、平和や暴力を使わないこと、世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

4-3

2030年までに、**すべての人が**、男女の区別なく、無理なく払える費用で、**技術や職業に関する教育や、大学をふくめた高等教育を受けられるようにする。**

4-a

子どものこと、障がいや男女の差などをよく考えて、学校の施設を作ったり、なおしたりし、すべての人に、安全で、暴力のない、だれも取り残されないような学習のための環境をとどける。

4-b

2020年までに、開発途上国、特に最も開発が遅れている国、島国やアフリカの国などの人が、先進国や他の国で、職業訓練、情報通信技術、科学技術のプログラムなどの高等教育を受けるための奨学金の数を世界的にたくさん増やす。



4-c

2030年までに、開発途上国、特に開発が遅れている国や島国で、**学校の先生の研修のための国際協力などを通じて、知識や経験のある先生の数をたくさん増やす。**

参考：公益財団法人 日本ユニセフ協会HP

日本の取組み

関係する行政機関が相互に連携を図りながらSDGsを効果的に推進するため、2016年に「SDGs推進本部」を設置

幅広いステークホルダー（利害関係者）との連携を深めるため、行政、NGO・NPO、有識者、民間セクター、国際機関、各種団体などが集まる「SDGs推進円卓会議」を開催

「SDGs実施指針」を策定し、「2030アジェンダ」で掲げられた「五つのP」に対応させた、「日本が取り組む八つの優先課題」を具体的な施策の指標を提示

SDGsの取り組みを加速させるため、全省庁の具体的な施策を盛り込んだ「SDGsアクションプラン」を毎年発表

【SDGs実施指針から：日本が取り組む八つの優先課題】

People 人間

- ① あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現
- ② 健康・長寿の達成

Prosperity 繁栄・豊かさ

- ③ 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
- ④ 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

Planet 地球

- ⑤ 省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会
- ⑥ 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

Peace 平和

- ⑦ 平和と安全・安心社会の実現

Partnership パートナーシップ

- ⑧ SDGs 実施推進の体制と手段

国は

地方創生SDGsの達成に向けて、優れた取り組みを提案する自治体や地域を選定する「**SDGs未来都市**」制度が2018年から開始。

特に優れた先進的な60の事業を「**自治体SDGsモデル事業**」として資金的に支援し、成功事例の普及を目指す。

品川区は

SDGsの達成に向けて優れた取り組みを提案する都市として、内閣府から2024年度の「**SDGs未来都市**」に選定されました。

その中でも特に先導的な取り組みを行う「**自治体SDGsモデル事業**」にも選定されました。

品川区の取組み

①SDGs未来都市計画の策定

出典：総務委員会資料・品川区ホームページ

SDGs未来都市計画の策定

令和6年5月

内閣府より令和6年度SDGs未来都市および
自治体SDGsモデル事業に**W選定**

令和6年6月～9月

提案書の内容を3か年の「SDGs未来都市計画」
として再編成

令和6年7月31日

内閣府・自治体SDGs推進評価・検討委員による
現地訪問（エコルとごし）

令和6年10月21日

区HPにて「SDGs未来都市計画」公表

令和7年1月～

定期的に進捗評価を行い達成度を明確化
内閣府のフォローアップを受けながら計画を推進



しながわSDGs共創推進プラットフォームの設置

多様なステークホルダー間の相互交流や情報共有を通じ
SDGsの達成に向けた取組みの推進および
地域課題や行政課題の解決を目指すプラットフォームを設置

- 9月6日 キックオフとなる交流会を開催
50以上の区内企業・団体等から100人以上が集結
3課（地域交通政策課・環境課・子ども育成課）
による課題ピッチを実施
- 官民共創の意識浸透のための職員向けセミナーワークショップの実施
【オンラインセミナー】
10月9日～10月31日全職員対象

【ワークショップ】
①10月30日管理職対象 ②10月31日係長・主任対象



「しながわシティラボ」専用HPの開設

しながわシティラボ (<https://Shinagawa-citylab.jp/>)

行政が抱える課題に対し 企業・大学等から解決策を募集 (課題解決型)

行政が企業・大学等へ新サービスの実証実験の場を提供 (実証実験提案型)



募集中

地域公共交通のさらなる利便性の向上

#スマートシティ #AI #MaaS #交通 #移動

地域交通政策課



募集中

中小企業における脱炭素化の推進

#カーボンニュートラル #中小企業
#再生可能エネルギー #温暖化 #省エネ

環境課

提出期限：2024/12/31



募集中

子どもが安心してチャレンジできる環境
づくり

#コミュニティ #アントレプレナーシップ
#子育て #学び #食

子ども育成課

提出期限：2024-12-31

その他の事業

(1)品川区こども会議

6月と9月にこども会議を開催

※子ども育成課 戦略広報課 企画課が運営協力

令和7年度予算編成において政策化検討



(2)SDGs宣言制度

6月から開始 15件(11月18日時点)

ステッカーデザインが決定

※小学生からの応募36作品から最終候補5作品
に絞り小学生による投票で決定

品川区の取組み

② SDGsで官民共創？

近年の社会課題

流動性 (Volatility)

不確実性 (Uncertainty) + 行政の人材不足

複雑性 (Complexity)

曖昧性 (Ambiguity)

行政だけでは
社会課題を解決できない

官民共創

行政と企業や団体が、
社会課題の解決に向けて
お互いの強みやリソースを活かす

それとSDGsになんの関係が
…?

実はあるんです

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



「パートナーシップ」で
目標を達成しよう

品川区の取組み

しながわシティラボ

区と企業・団体等をつなげ、
社会課題の解決を目指す
官民共創の
オープンイノベーションの仕組み

オープンイノベーション？

組織（行政）の垣根を超えて
知識や技術を持ち寄り、
技術革新などを創出する仕組み

しながわシティラボの仕組み



しながわシティラボHPより引用

区からの支援

- 事業費用の支援
- 広報支援
- 区のリソース提供

課題解決型

- 中小企業における脱炭素化の推進
- 地域公共交通のさらなる利便性の向上
- 子どもが安心してチャレンジできる環境づくり



現在複数件の応募

実証実験提案型事業第1号

■子育て家庭の食
株式会社マチルダが提供しているステーションを利用して、家庭料理の夕食を届けることで家事負担を軽減することに加え、子どもたちと直に触れ合うことで「毎日のちょっとした楽しみ」を届ける仕組みです。



株式会社マチルダHPより引用

ご清聴ありがとうございました



■ ワークショップ

- 各テーブルで意見交換
- 各テーブルの代表による発表